

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	障がい児の美術表現とその指導法の可能性について — 現職教員との指導と作品展、ワークショップを通して考察する —
------	---

研究代表者

氏名 花澤 洋太	所属 芸術・スポーツ科学系 美術 書道講座	職名 准教授
-------------	-----------------------------	-----------

研究分担者

氏名 南雲 まき	所属 大学院教育学研究科	職名 大学院生

【研究成果の概要】

研究成果の概要

本研究は本学美術科洋画研究室学生が夏期休暇中に都立小平特別支援学校武蔵分教室において重度の障がいをもった子ども達に対して美術指導、作品制作を通して障がい児の美術表現とその指導法の可能性についての実践研究である。

● 研究方法

- ・平成26年8月4日（月）、6日（水）、7日（木）に小平市の（独）国立精神・神経医療研究センター病院内の院内学級である都立小平特別支援学校武蔵分教室に東京学芸大学美術科洋画研究室の学生が訪問。児童・生徒及び卒業生との交流、美術指導を行う。
- ・11月16日（日）～25日（火）に本学構内の芸術館にて武蔵分教室の児童・生徒の作品展「ふれる・もつ・かんじる～ぼくらの美術館～」を開催。
- ・11月19日（水）に武蔵分教室の児童・生徒がスクールバスで本学芸術館に来場し、作品展の観覧と本学学生との交流を行う。
- ・11月16日（日）、22日（土）に作品展会場で洋画研究室の学生が現職教員と連携してワークショップを行う。

● 研究内容

本学洋画研究室有志17名（南雲まき、井戸瑠理子、國武葵、蓮沼祐記、権田明歌音、由佐万織、井料苑実、伊勢花名子、尾関亜也、大川楓、緒方李心、石崎永遠、本間千晴、北嶋梓、千野希帆子、野坂健太郎、小菅千鶴）が8/4,6,7の三日間、都立小平特別支援学校武蔵分教室（国立精神・神経医療研究センター病院内）において重度の障がいをもった子ども達に対して日常の授業では使用しない素材体験、Ipad、デジタル機材なども使い図画工作授業を行った。制作した作品は11/16～11/25まで東京学芸大学芸術館で開催される「ふれる・もつ・かんじる展～ぼくらの美術館～」で展示。展示期間中は11/16,22の二日間、都立小平特別支援学校武蔵分教室教諭による院内学級における授業科目「おんがく」「ふれる・もつ・かんじる」「みる・きく」の授業実演のワークショップも行う。また11/22は東京学芸大学美術専攻洋画研究室による「星までとどけひかりの木」のワークショップを開催。作品展、ワークショップには連携校の児童・生徒ではない、地域に住む肢体不自由者の参加も見られた。障がいをもつ方、もたない方、大人、子どもとの間に学生が参加する事で交流を深めた。作品展には会期を通して約230名が来場。会場での任意アンケートの回答数は138名分であった。

今回の一連の研究は院内学級における授業企画実践、連携校教諭との作品展示、ワークショップ企画実施を通して美術教育の新たな視点、思考を獲得すると同時にコミュニケーションの道具としての美術教育を体現、認識するに至った。

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築に提唱される現在、今回の実践的研究は都立小平特別支援学校武蔵分教室との連携を行う事で多様な学びの場を創出し美術活動を通して障がい児の理解を深めた。また地域社会の中で開かれた学校としての展示、ワークショップ活動は豊かな美術教育のモデル提唱になりインクルーシブな社会の構築につながると考える。

（研究協力者）

井戸 瑠理子 （東京学芸大学 中等教育教員育成課程美術専攻2年）

研究成果発表方法

企画は小平市報、朝日新聞多摩地域タウン誌 asacoconi に掲載。
2014, 10/4 大学美術教育学会（福井大会）において研究分担者（南雲 まき）が口頭発表を行う。
今後、収集したデータをもとにドキュメント小冊子制作予定。